

「女子だけで活動をおこなう意味」

調査研究中間報告

(公社) ガールスカウト日本連盟 日本のガールスカウト教育を考える会

日本のガールスカウトは、日本で運動を開始して以来 90 余年にわたり、女子のみで活動・運営してきました。昨今、男女共同参画社会の進展とともに、男女が同じ環境で教育を受け、活動を行う機会が増える中、ガールスカウトが「女性だけで活動する理由」を問われることがあります。このことと関連し、ガールスカウト活動に参加して、そこで育つ力を「見える化」することは、ガールスカウトの教育成果を定量的に評価するために、以前から求められていたことでもありました。

(公社) ガールスカウト日本連盟が設置した「日本のガールスカウト教育を考える会」では、2011年6月から、「女子だけで活動をおこなう理由」について議論を重ねるとともに、諸外国の事例を含め、研究をすすめてきました。その一環として、同会は2012年7月～2013年2月にかけて調査をおこない、その中間報告をここに共有します。

この調査では、以上の「理由」を探すと同時に、教育成果を検証するために、ガールスカウト活動に参加する中学生および高校生年代の女子と、一般の中学生および高校生女子に対して、アンケート形式で意識調査を実施しました。また、これと並行して、ガールスカウト活動経験のある20代の女性に対し、その経験を俯瞰するために聞き取り調査を行いました。

なお、本調査は、単純集計とクロス集計に基づいた分析を中心に行っています。ここでは分析の第一段階として、「ガールスカウトが育てる力」と「女子のみの教育環境」に関してご紹介します。今後、この調査結果の分析をすすめ、最終報告を2013年度にまとめる予定にしています。そして、この研究を通して、【女子の力を育てる環境や条件】について、社会とともに考えていきます。

【調査概要】

調査対象： 全国のガールスカウト活動に参加する中学生女子 323名、高校生女子 262名
全国の中学生女子 237名、高校生女子 112名（中学生男子 287名、高校生男子 38名）
ガールスカウト経験のある20代女性

調査方法：アンケート用紙記入（一部オンラインでの回答）およびフォーカスグループ

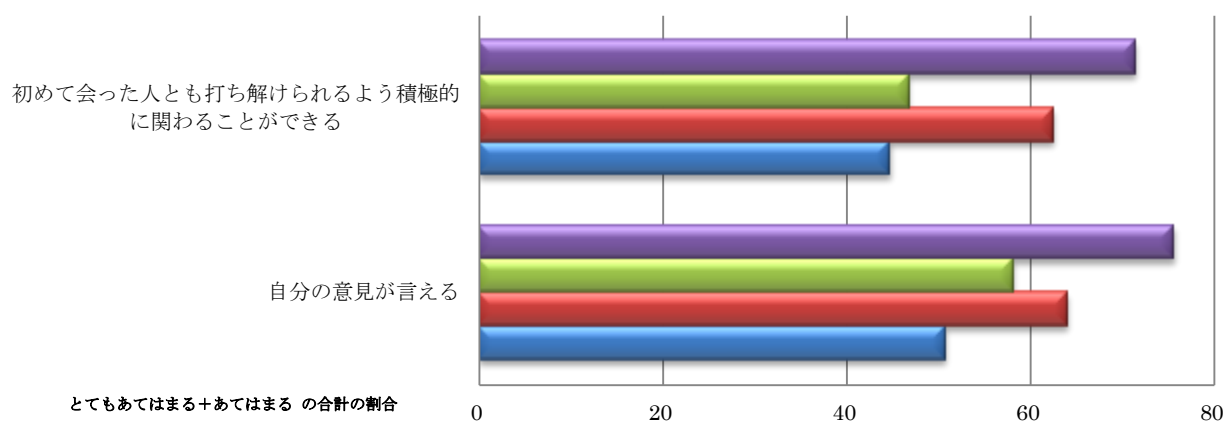
調査時期：2012年7月～2013年2月（予備調査を2011年度実施）



～自分の人生を自分の手で切り拓き、主体的に社会に関わるために～

ガールスカウトでは、①積極的に人と関わる力、②仲間と成し遂げる力、③挑戦しようとする力、④自己肯定感、⑤ジェンダーに偏らない世界観、が身につけています。それを実現するためには、【体験重視】【グループ活動】【異年齢とのかかわり】、そして【女性だけの環境】という、ガールスカウト教育の特徴が大きく関係していると言えます。

■積極的に人と関わる力



	自分の意見が言える	初めて会った人とも打ち解けられるよう積極的に関わる
ガールスカウト (高校)	75.6	71.4
一般高校生	58.1	46.7
ガールスカウト (中学)	64.0	62.5
一般中学生	50.7	44.7

ガールスカウトの声

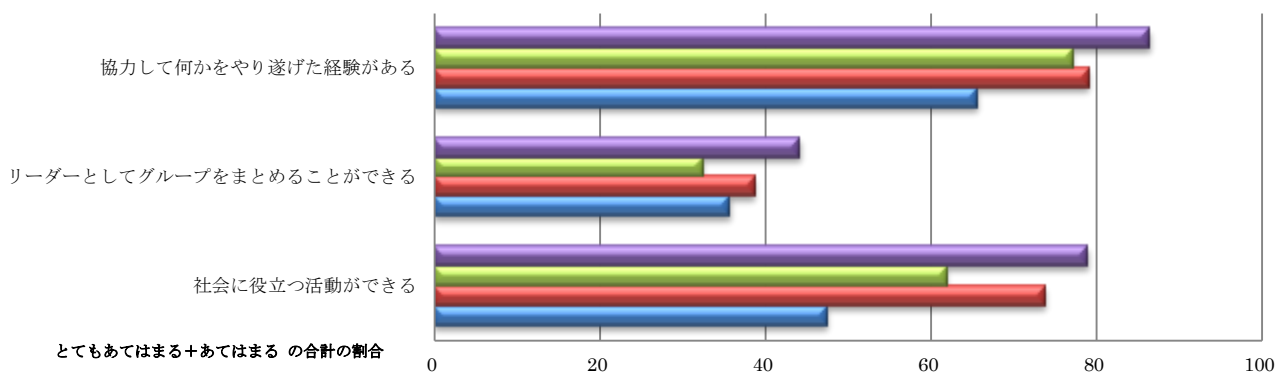
“誰かが一人だと、その子に声をかけて仲間に入れてあげたい、入れてあげなくては、と思う。”

“もともと極度の人見知りだったのが、知らない人に自ら話しかけられるようになったり、大勢の人の前でもはっきりと話せるようになった。”

“学校では同じ学年の子といることが多いけれど、ガールスカウトで幅広い年代の人たちと関わる中で、年齢に応じた対応をしたり、気配りができるようになった。”

ガールスカウトは、「初めて出会う人とも積極的に関わる」という力を十分に身につけていると言えます。ガールスカウトでは小規模集団で、いろいろな年齢・立場の人と継続的に関わり合うなかで、人とコミュニケーションをとる方法を自然と学んでいきます。話し合い活動などを通じて、自分の意見を求められる機会も多く、発表を積み重ねる中で、人前で話すことへの抵抗感がなくなっていくようです。

■仲間と成し遂げる力



	社会に役立つ活動ができる	リーダーとしてグループをまとめることができる	協力して何かをやり遂げた経験がある
ガールスカウト (高校)	79.0	44.2	86.5
一般高校生	61.9	32.4	77.1
ガールスカウト (中学)	73.9	38.7	79.1
一般中学生	47.5	35.7	65.6

ガールスカウトの声

“私はガールスカウトで、責任感がついた。グループで活動する中で、いい意味での連帯責任を取ることによって、まわりの人を意識してみられるようになった。”

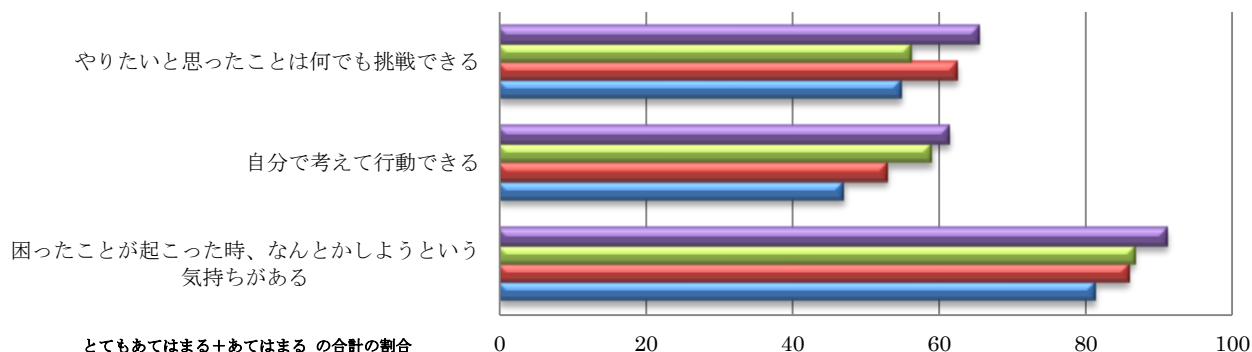
“発言力、行動力はガールスカウトでついてきた力だと思う。ガールスカウトでは自分たちの考えたことが実践されていく実感を持つことができ、社会に出たときに役立った。”

“様々な場面で協調性をもって、もめないようにまとめていける。”

“長になる機会がある。人の上に立って行動する機会があり、外に行っても不安にならない基礎が身についた。”

ガールスカウトでは「リーダーシップ教育」を行っています。ガールスカウトの重んじるリーダーシップは、独裁的なボスタイプではなく、民主的な解決を導くためにリーダーシップをシェア(共有)する協調型です。そのため、ガールスカウトは、一般女子に比べて、「リーダーとしてグループをまとめる」ことができます。また、ガールスカウトのプログラムでは、社会に役立つ活動を取り入れています。人に役立つためには、まず自分自身が様々な力や力を身につけることが必要であり、それは自身の可能性を伸ばすことにもつながります。

■挑戦しようとする力



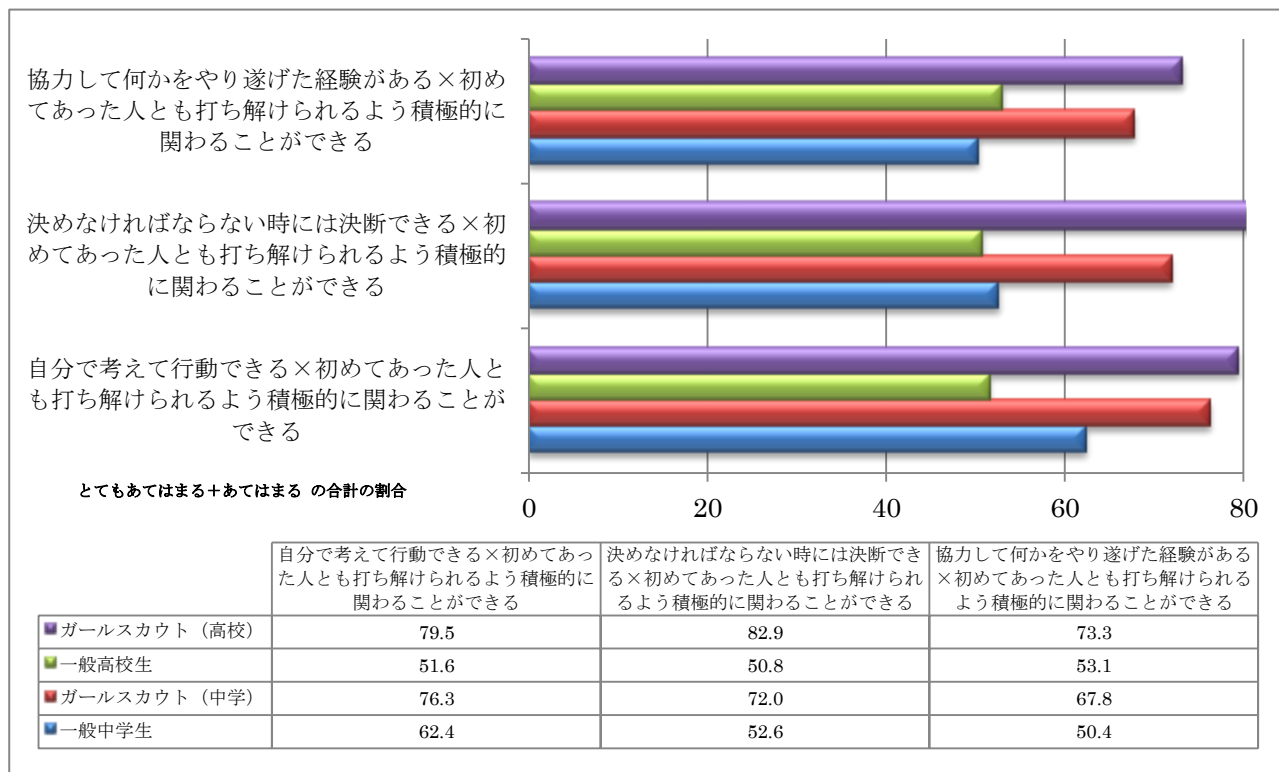
	困ったことが起こった時、なんとかしようという気持ちがある	自分で考えて行動できる	やりたいと思ったことは何でも挑戦できる
ガールスカウト (高校)	91.2	61.4	65.4
一般高校生	86.7	59.0	56.2
ガールスカウト (中学)	85.9	53.0	62.5
一般中学生	81.4	47.0	54.8

ガールスカウトの声

- “キャンプの時に(困っても)何とかなるだろうと思った。何度も失敗して、周りの人を助けたり、逆に助けてもらったりという経験が増えていった。”
- “ガールスカウトに来ると重い荷物も誰も運んでくれないので、何でもチャレンジしようと思う。自分のやれる範囲が広がる。”
- “女子校に在学していても、ガールスカウトの子はリーダーシップをとって積極的にチャレンジしようとしている。”
- “何とかしなきゃと思う。誰かがやってくれるのではない。”
- “人にやってもらう前に、自分でやってみようと思うようになった。”
- “学校は人数が多いので、最初の意見に乗ってしまう。ガールスカウトでは、自分たちで全部計画して最後まで実行する。”

ガールスカウトでは活動の中で、自分が取り組む課題を自分で見つけ、まずは自分でやってみるよう機会を与えています。そこで、成功だけでなく失敗経験を長年に渡って多く積んでいるため、自分で考えて行動する思考が自然と培われていきます。「自分で考え行動できる」「やりたいと思ったことに挑戦できる」気持ちはこのような経験から育まれていると推察できます。困ったときには何度も挑戦し、友達と協力しながら、知恵と技を出し合って、解決する方法を探っていくようです。

★さまざまな力の相関性



今回調査したさまざまな力には相関性が見られるようです。「積極的に人と関わる力」をあらわす要素の「初めて会った人とも打ち解けられるよう積極的に関わることができる」は、「協力した経験」「決断した経験」「自分で考え行動した経験」と関係があることが伺えます。

それぞれの経験で、具体的にどのような「シーン」でその経験があったかの記述には、学校での活動シーンが多く現れます。しかし、ガールスカウトの回答には、たとえば、「野外料理」「テントをたてる」などキャンプでの活動や「キャンプ」そのもの、「話し合いの活動で意見をまとめるとき」、「みんなで一緒にいろいろなことをやり遂げたとき」「リーダーとなったとき」「実行委員会など活動を計画する」ことなど、ガールスカウト活動に基づいた

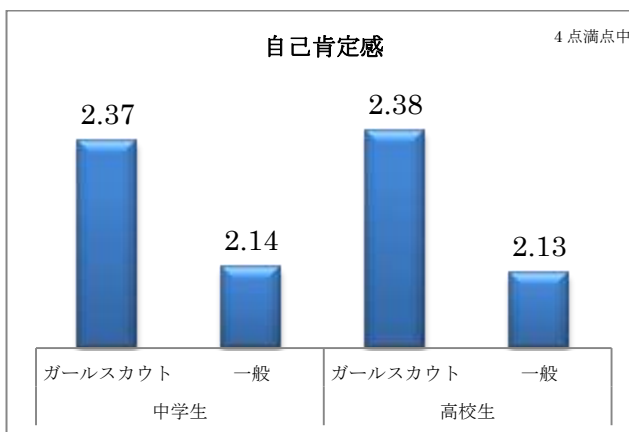
経験が学校生活での経験を上回り回答されます。また、記述回答数については、ガールスカウト経験者は、一般女子の倍となっていることから、ガールスカウトが一般女子よりも多くの選択肢を持っていることが推察されます。



■自己肯定感

中学生・高校生ともに、ガールスカウトは、一般女子に比べて、自己肯定感が有意に高いと認められます。このことはガールスカウトの過去の調査でも同様の結果がでています。

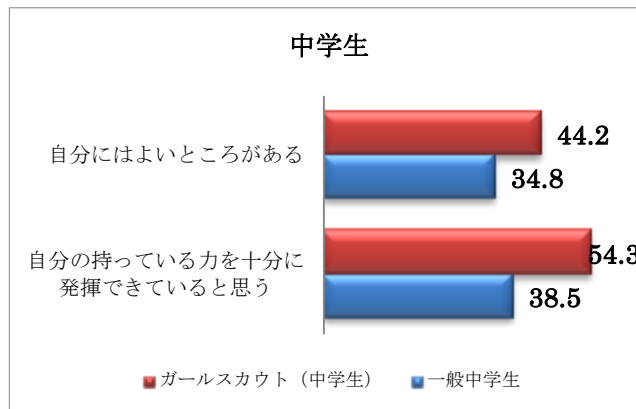
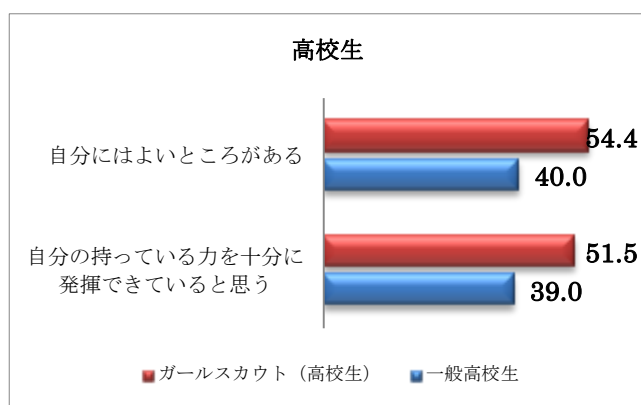
一般的に、思春期になると、特に女子の自己肯定感は低下する傾向にあります。日本の子どもの自己肯定感の低さは課題にもなっており、ガールスカウトとかわりには注目に値すると思われれます。



ガールスカウトの声

“私の部活は女子だけだがガールスカウトとは違う。ガールスカウトは一人一人が核を持っている。”
 “ガールスカウトの人は自分の強さを知っている。”

・自分を信じる力



ガールスカウトの声

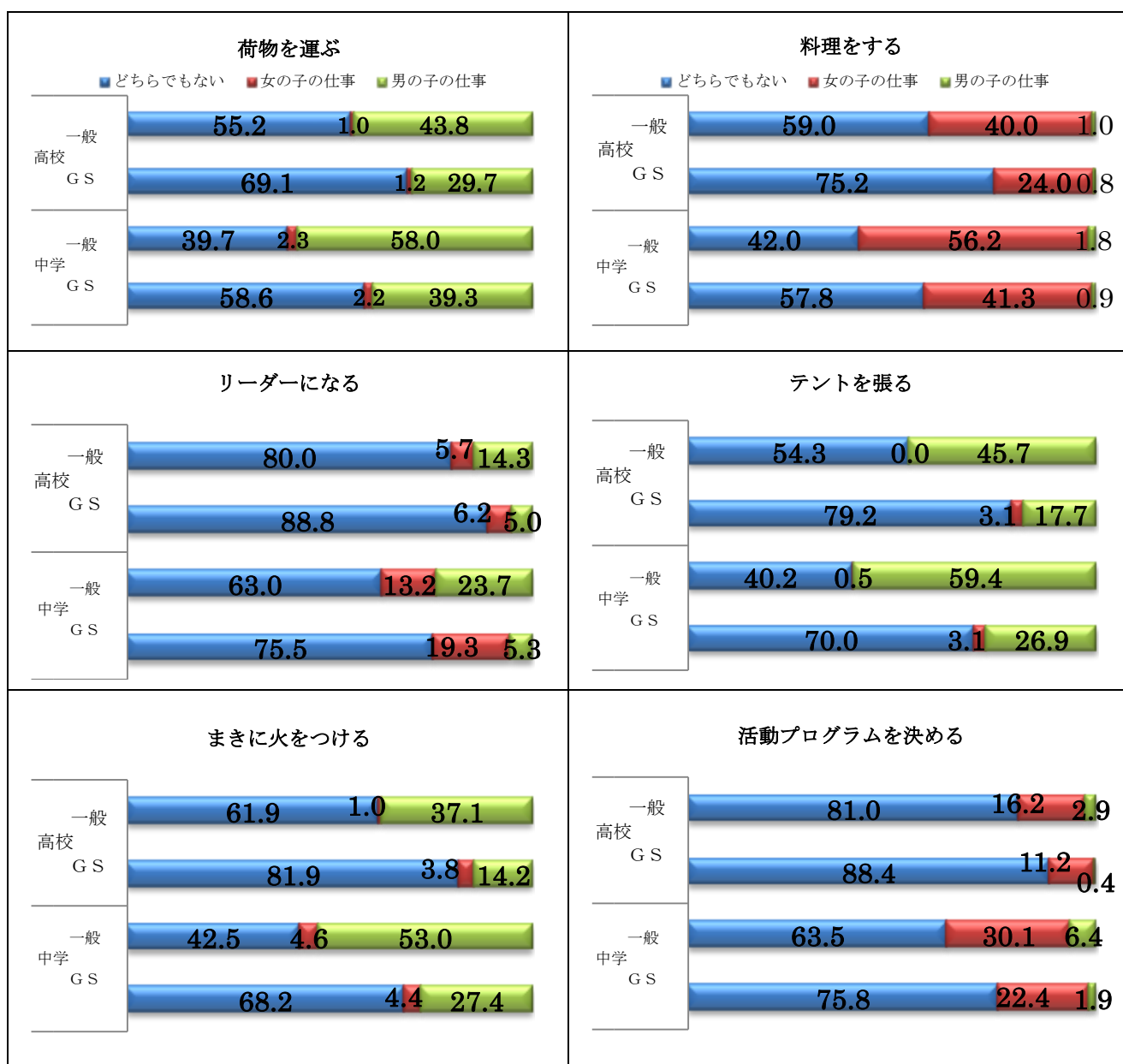
“自分より年上の(ガールスカウトの)方は、力強い自信をもっていると感じる。”
 “ガールスカウトでは、個が確立している。”
 “みんなで作りあげていこう、作り上げていける、と思っている”
 “ガールスカウトでは、一緒に活動しよう、企画しよう、という意識が自然に出てくる。”

「自分にはよいところがある」「持っている力を発揮できている」という少女が、一般に比べてガールスカウトには多いことが認められます。多くの体験の機会、大人とのかかわりを通して、自分を発見する、活かす場面が多くあるからだと考えられます。

■ジェンダーに偏らない世界観

一 男女別役割意識の違い

キャンプ等での役割を示し、「男女どちらの仕事だと思うか」と問うと、ガールスカウトは多くの役割に「どちらの仕事でもない」と答える割合が、一般女子に比べ、有意に高くなっています。これは、すべての活動を女性だけで分担して行う経験に起因しているように思われます。そしてこの力は、将来にわたっても、性別にとらわれず、自分らしくある選択をする基礎となると思われます。このことが、職業選択や社会生活においてどう影響するかについては、別途調査をおこなう必要があります。



■異性がない環境の意義

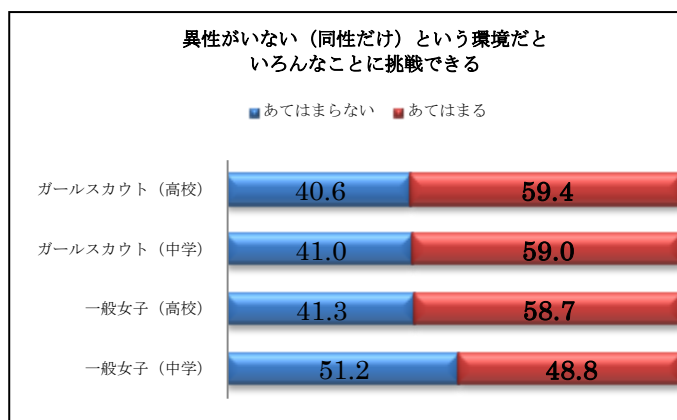
ガールスカウトの声

- “女子でも男子のことが出来ること！”
- “普段は男子がやっていることに取り組むことができるから”
- “女の子しかいないから自分たちでできる”
- “いつも男の子がやることが自分で出来る”
- “女子だけでもこのくらいのことできるとわかる”

ガールスカウト経験の有無に関わらず、異性がない

環境であると、いろいろなことに挑戦できると答えが約半数、そして高校生の方がその割合は増えます。ガールスカウトの方が多いのは、女性だけの環境で活動することから得るものが多いからではないでしょうか。

興味深いことに、「異性がない環境だといろいろなことに挑戦できる」という男子の割合は、全体の63%です。



ガールスカウトの声

- “共学だと相手をみて控えめになってしまう。”
- “女子だけだと本音を出しやすい。しゃべりやすい。自分を飾らなくていい。”
- “男性がいると「良く見せたい」と、自信のないことから逃げようと思うが、女子だけだと何とか解決しようと思う。”
- “異性から言われたことは素直に聞きにくいですが、女子の前だと「そうだよね」と思う。異性だと素直に聞けずに聞き流してしまうことがある。”
- “（大学の）ゼミでは、女性の意見が男性の意見に消されてしまうことがある。自分が発言することによって、「他の女の人も自主的に発言できるようになってきた」と先生に言われた。ガールスカウトのギャザリング（話し合い活動）などで経験してきたことが生きているな、と実感できた。”

また、異年齢集団は、年上の人姿に将来の自分を重ね、「カッコイイ」「あんなりたい」と憧れを抱き、努力をすると同時に、「自分の姿は年下の仲間に影響するのだ」という自覚と自分を律する心を養うという役割があるという声があります。

ガールスカウトの声

- “今まで先輩たちを見てきた経験から、自分もリーダーになって先輩のように、よいリーダーになりたいと思っている。”
- “海外にいったレンジャースカウト（高校生）の印象が強かった。自分がレンジャーになったときに小さかったときのことを思い出して、自分もそうなりたと思った。”
- “自分がジュニア（小学校高学年）の時にレンジャー（高校生）の人をいいなと思っていた。リーダーになり、スカウトが自分の行動をいいな思ってくれているので、自分がロールモデルになれるといいなと思う。”

■女子だけで活動する意味

「女の子が主役になれる」——18歳、ガールスカウト

ガールスカウトの中学生・高校生は、「女子だけで活動する意味」を次のようにとらえています。

① 安心感がある

女子のみの環境は、「安心できる」、「落ち着ける」、「共感が得られる」、「素の自分でいられる」場を得ることができ、それが「自分もっている本来の力を発揮できる場」になっている、という意見が全体の半数以上です。

② チャンスを得る、チャレンジできる

女子のみで活動することは、男子の存在による先入観にとられることがなくなり、「自分達で何とかしようとする力」がつかます。役割にしても、活動の内容にしても、「やりたい」と思ったときに、「やってみたら？」と声をかけてくれる人(女性)がいて、本人たちの自主性に任せて成功も失敗も見守っているのです。ぎこちなくても少しずつでもステップアップができます。今まで経験できなかったことにチャレンジする機会を得て、その結果が自信へとつながり、多方面に波及効果をもたらすと考えられます。

③ コミュニケーション力・共感力を養う

女子のみの環境では、時間の長短に関係なく、仲良くなれる、打ち解けやすいということから、特に、お互いを理解し、相手を思いやるコミュニケーション能力が育ち、共感力・協調性を高めることにつながっていると考えます。女子のそばに常にいる女性の指導者(資格制度あり)は、やわらかく、一人ひとりに接し、相談しやすい雰囲気を用意していることも影響していると考えます。

おわりに

日本のガールスカウト教育を考える会に、「女子教育の意義を検証する」という研究課題が与えられ、もうすぐ2年になります。この間、文献を探し、いろいろな方にお会いし、多くの議論に時間を費やしてきました。その中で私たちは、「日本には女子教育についてのデータや研究がない」という事実と直面しました。イギリスやアメリカなどには別学の意義についての研究結果が豊富にあり、ガールスカウトのアメリカ連盟やイギリス連盟は様々な調査を行っていました。そういった事実と触発され、「データがないのであれば、自分たちで収集しよう」と、今回の調査実施となりました。

調査データが集まったものの、この報告書を作成するまでには、非常に限られた時間で行わなければなりません。そのため、ここでは分析が十分に行えず、数字をご紹介する程度に留めることになったことをお詫びしたいと思います。この報告書をご覧になった方は、「なぜこういう違いがあるのだろう」「この力はどうやったらつくのだろう」など、様々な疑問をお持ちになるかもしれません。

この中間報告で強調したいことは2つあります。ガールスカウトは、【自分の人生を生きていくために必要とされる力を確かに育成している】ということ、そしてそれには【女子のみの環境】が優位に働いている、ということです。これらは、女性の力の活用が叫ばれる今の日本社会の中で、必ず貢献できるものであると思います。

次の段階として、その力を育てるための要素や条件とはなにか、どうすればその力をさらに伸ばせるのか、について考えていかねばなりません。

今回の調査では、ガールスカウトが育む力の一端を見ることができました。これらの数字が何を意味するのか、そしてその違いはどこから来るのかについては、今後議論と分析を重ねていきたいと思えます。一方、一般女子とガールスカウトの間に、あまり違いが見られなかった要素についても検証を行います。

「ガールスカウト経験年数と育つ力や意識の違いの関係性」についても分析が必要です。最近ガールスカウトのアメリカ連盟がおこなった調査によると、ガールスカウト活動が3年未満・3年以上・6年以上の経験者では、その後の人生においてさまざまな場面で違いがでてい実証されました。

今後日本においても、少女が自分の人生を自分の手で切り拓く、自分の人生のリーダーシップをとるためには、どのようなプログラムや教育環境が必要であるかについて研究を重ねる予定です。

2013年3月24日

(公社) ガールスカウト日本連盟 日本ガールスカウト教育を考える会